

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定 (実施結果))

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月3日実施)	総合評価 (3月12日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>・基礎的・基本的な知識と技能を習得し、課題発見・解決に向けた協働的な学びから社会的・心理的な成長を促す。</p> <p>・主体的に学ぶ意欲を向上させ、多面的・多角的な考えに基づいて、自分の考えを適切に伝え発信する力を養う。</p>	<p>①電子黒板や一人一台端末等のICT機器を活用した授業づくりを研究し、組織的な授業改善に努める。</p> <p>②障害の有無に関わらず、共に学ぶ意識を生徒に持たせ、課題解決力を身に付けさせる。</p>	<p>①生徒が端末を効果的に活用しながら、主体的に学習に取り組むような授業づくりを行うとともに、計画的に職員研修を実施して授業改善を図る。</p> <p>②共に学ぶ意識を持たせるために授業のUD化をさらに進め、生徒同士が意見を共有することで課題解決力を身に付ける。</p>	<p>①生徒による授業評価の「当てはまる」評価の割合が前年度よりも上昇したか。ICT活用に係る職員研修を複数回実施できたか。</p> <p>②授業及び学校全体のUD化を推進できたか。また、授業等の場面で生徒が意見を共有しあえる場面を提供することができたか。</p>	<p>①新着任者を主な対象者として、校内で電子黒板の活用方法についての研修を行った。</p> <p>②教材を含む、校内作成文書のUD化は継続して達成している。授業改善については各教科で行っている状態であるが、後期に学校を挙げて取り組む予定である。</p>	<p>①ICT機器の活用が、主体的に学習に取り組むような授業づくりにつながっているか授業評価で確認をする。</p> <p>②お互いに授業を見学し合う期間を設け、生徒同士が意見の共有を行う場面を作れているか等を含め、授業改善につなげていく。</p>	<p>・「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善に取り組み、ICT機器を活用して生徒が理解しやすい授業を心掛けている点が素晴らしい。</p> <p>・発問を工夫し誰でもが自分の考えを発表できるように配慮している点が良い。UD化の成果が確実に表れている。</p>	<p>①ほぼすべての教員が電子黒板やICT機器を活用した授業づくりを行うことができた。</p> <p>②授業のUD化は教員間に浸透している。職員間の授業見学週間の活用について、次年度も継続して実施する。</p>	<p>①生徒が共に学ぶ意識や課題解決力を向上できるように、更なるICT活用やUD化を意識した授業づくりを行う。</p> <p>②計画的に研修等を行うことにより生徒が主体的に学習に取り組めるような授業づくりを目指す。</p>
2 生徒指導・支援	<p>・変化する社会と生徒への理解を深め、いのちを大切に相対と支援体制により、すべての生徒に最適な支援を行う。</p> <p>・生徒主体の高満足度な部活動に向けた取組を行うとともに、部活動が地域参加や生徒会行事等の活性化を図るようになる。</p>	<p>①他者を思いやり尊重する心を育む。支援を要する生徒については、ケース会議や外部機関との連携を通じて、生徒の健全な成長を支援する。</p> <p>②部活動の満足度を上昇させる取組を実施していくとともに、部活動や校外活動の状況等を効果的に発信していく。</p>	<p>①生徒情報をサポートドックや相談体制から収集し、支援を要する生徒については早期に対応する。</p> <p>②生徒が、地域行事や学校行事等に主体的に参加できるようにサポートしていく。また、生徒の活動状況を速やかに外部発信していく。</p>	<p>①教育相談 Co、SC、SSWと各学年との間で、定期的な情報共有ができたか。緊急時には速やかに支援体制を構築するとともに、教職員全体に適切な情報を提示し、活用することができたか。</p> <p>②個々の生徒の特性を把握し、各種行事に主体的に参加する生徒が増えたか。生徒の活動状況を学校HP、掲示物等でタイムリーに発信することができたか。</p>	<p>①サポートドックや生活アンケートを活用し、生徒からのSOSへの対応に役立てることができた。SC・SSWに加え、外部との連携の比重を高め、より広い視点での生徒支援に役立てることができた。</p> <p>②学校行事では各行事の実行委員を中心に、教員の助言を受けながら主体的に取り組む様子が見ええた。また部活動の活動結果をHPで速やかに発信した。</p>	<p>①サポートドックと生活アンケートの両立を継続し、多角的に生徒のSOSを拾い上げ支援する。学校だけでなく、より客観的・有効的な支援の判断ができるよう、外部機関との連携を強める。</p> <p>②今後も生徒の特性に合わせた役割を設定し、充実感を味わえるよう工夫する。</p> <p>より多くの活動状況を速やかに発信できるよう組織を見直す。</p>	<p>・生徒からのSOSを教育相談 CoやSC、SSWと定期的に情報共有し、速やかに対応している点は評価できる。動画や写真の取扱いに係る「情報モラル教育」について、継続した取組を期待する。</p> <p>・部活動等の結果をHPで速やかに発信していた。来年度も継続してほしい。学校説明会や部活動体験で中学生に生き生きと教えていた姿が印象的であった。</p>	<p>①支援を要する生徒に対してSC、SSWと連携対応できた。交通安全や犯罪防止等の新たな取組も実施し、生徒への意識づけができた。</p> <p>②学校行事や部活動において、生徒が主体的に活動し、結果を残すことができた。HPの活動状況更新も前年度よりも多に行った。</p>	<p>①支援を要する生徒についてサポートドックやアンケートから情報を収集し、校内外の専門職員と連携して素早い対応ができるようにする。</p> <p>②生徒が地域との関わりを大切にしながら成長できるような学校行事・部活動の実施を目指す。</p>
3 進路指導・支援	<p>・蓄積した進路データを分析してエビデンスに基づく「キャリア教育実践プログラム」により、生徒の進路目標を高めるとともに、進路希望の実現に向けて支援する。</p> <p>・自分の進路と取り組むべき課題に向き合い、他者と協働して社会に貢献する姿勢を育成する。</p>	<p>①生徒が主体的に進路の目標設定を行い、「キャリア教育実践プログラム」を通じて目標が実現につながる支援を行う。</p> <p>②学校生活で、周りの人との助け合いや協力することにより、他人への思いやりや社会に貢献する姿勢を養う。</p>	<p>①民間Web教材や模擬試験、進路説明会を通して、進路実現に向けた取組を生徒が主体的かつ計画的に行えるようにしていく。</p> <p>②授業での協働、総合的な探究の時間やインターンシップ等を通じて他者との協働・課題解決能力の向上を図っていく。</p>	<p>①民間Web学習教材の利用率及び模擬試験等の受験者数が増えたか。進路マニュアルが有効活用できたか。</p> <p>②探究課題を生徒自らが設定し、発表やアンケート等で評価を得ることができたか。インターンシップ等の校外活動を行う生徒が増加したか。</p>	<p>①進路説明会、模試は計画的に実施することができた。模試では返却されてきた結果は担任等とも共有し、生徒の進路実現に向けて助言をすることができた。</p> <p>②インターンシップでは個々の進路実現に向けた体験に積極的に参加させることができた。総合的な探究の時間では、地域との連携も実施し、個人、グループで生徒の伸長にて投げることができた。</p>	<p>①卒業後の目標が決められていない生徒に対して、説明会等を活用して参加人数を増やしていきようにする。</p> <p>②今年度から新たな手法で進めてきており、共有できていない部分もあるので、できるだけ集約し情報共有していけるよう進めていく。</p>	<p>・進路説明会や模試、インターンシップを計画的に行い、卒業後の目標を決めることができるように働きかけており、高校卒業後の進路先が多方面に広がっている点が素晴らしい。</p> <p>・総合的な探究の時間を有効に活用し、地域との連携を重視している点もよい。</p>	<p>①生徒の進路目標を実現できるよう支援を行ったが、具体的に明確な目標設定ができず、進路先決定に苦戦していた生徒もいた。</p> <p>②インターンシップ等で個々の進路に係る体験を実施できた。総合的な探究の時間は、各学年で目標とする進路活動を行うことができた。</p>	<p>①大学入試等、生徒の進路に係る情報収集に力を入れる、進路実現に向けた取組を生徒が主体的、計画的に行えるようにしていく。</p> <p>②総合的な探究の時間やインターンシップ等を通じて、地域との関わりを増やし、他者との協働・課題解決能力の向上を図っていく。</p>

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月3日実施)	総合評価(3月12日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4 地域等との協働	<p>・地域資源を活用して学校の教育活動の充実を図るとともに、外部に配信することで地域から信頼される安心・安全な学校に取組む。</p> <p>・開かれた学校づくりを行い、学校における共生社会の実現等を発信する。</p>	<p>①学校運営協議会の意見を有効に活用し、地域に開かれた学校の具現化を図り、取組を外部に発信できるようにする。</p> <p>②近隣の学校や福祉施設等との交流を推進し、学校の取組を積極的に発信することで、地域の人々とともに歩む学校づくりの推進を図る。</p>	<p>①地域資源に関する情報について、学校運営協議会の意見を参考にし、地域に開かれた学校を目指していく。</p> <p>②探究活動や部活動において更なる地域交流を図るとともに、その取組を外部に発信できるようにしていく。</p>	<p>①学校運営協議会と学校が有意義な意見交換を行うことにより、地域との協働的な活動を行うことができたか。</p> <p>②地域との交流を計画的に行うことができたか。学校HPや生徒会のSNS等を活用して、取組を効果的に発信することができたか。</p>	<p>①本校の取組等に対し学校運営協議会でいただいた様々なご意見を地域に開かれた学校づくりに生かせるよう職員全体で共有した。</p> <p>②主に部活動で地域のイベントに参加し交流を行うことができた。また探究活動の成果として地域のイベントにて企画の立案、運営を行い、地域との交流を図った。</p>	<p>①本校が行っている地域との協働的な活動について集約し、必要に応じて改善や修正を加える。</p> <p>②今後も継続して地域交流を図れるよう、地域との連携を深めたい。また活動を発信できるよう組織的に取り組んでいく。</p>	<p>・地域資源を活用することや地域に積極的に出ていき、開かれた学校づくりを目指している点が素晴らしい。</p> <p>・フラグランス部をはじめとしたいくつかの部活動が地域のイベントに参加し日頃の練習の成果を披露している点は大いに評価できる。地域に信頼される学校づくりを目指してほしい。</p>	<p>①学校運営協議会の意見を有効活用し、地域と連携・協働した活気のある学校づくりを行うことができた。</p> <p>②部活動や総合的な探究の時間において、地域や福祉施設等が実施するイベントに参加し、地域貢献ができた。</p>	<p>①今後も地域資源に関する情報の収集に努め、今まで以上に地域に開かれた学校を目指していく。</p> <p>②学校活動において更なる地域交流を図るとともに、その取り組みを外部に発信できるようにしていく。</p>
5 学校管理 学校運営	<p>・インクルーシブ教育実践推進校として、共生社会の実現に引き続き取組む。</p> <p>・「いのち」を大切に、健康や安全を心がけ、多様な他者も尊重する心を醸成する。</p> <p>・教職員のキャリアを高め、働き方改革を促進するとともに、生徒と向き合う時間を確保する。</p>	<p>①生徒、職員双方にインクルーシブ教育実現のための意識付けを行い、校内外において共生社会の実現を図る。</p> <p>②学校が安心・安全な学びの場所になるよう教育環境を整備し、マニュアルを活用した災害時対応の防災訓練を実施する。</p> <p>③各教職員が働き方改革を加速度的に促進させることを意識し、教職員のライフワークバランスがより良いものになるように努める。</p>	<p>①生徒及び職員のインクルーシブ研修を行うことにより共生社会について理解を深め、校内外において共生社会に参画できる意識付けを行っていく。</p> <p>②危機管理マニュアルの内容理解を職員全体で徹底し、校内施設の安全について日常から意識するようになる。</p> <p>③校務グループの改編を行うとともに、業務内容の精選を行い、業務量の削減につなげて働き方改革を実行する。</p>	<p>①研修をふまえて、生徒が互いに前向きな声掛けをしよう様子が見られたか。職員は支援の観点から授業づくりを進めることができたか。</p> <p>②危機管理マニュアルの内容を把握し、計画的に避難訓練を行うことができたか。マニュアルの見直しを図ることができたか。</p> <p>③職員の業務量を削減するとともに、職員の在校時間を削減することができたか。</p>	<p>①新年度スタートの時期に集会などを通じてインクルーシブ教育実現のための意識づけを行った。また、後期には研修の実施も予定されている。</p> <p>②危機管理マニュアルに従い、災害の発生を想定して、シェイクアウト訓練、グラウンドへの避難訓練、帰宅班の確認とハザードマップを使ったDIG訓練を行った。また備蓄品の補充と点検をした。</p> <p>③各校務グループの改編及び業務量の削減に向けて業務の精選を行った。</p>	<p>①職員については、全員に自分事として知識と理解を深めてもらうことが必要だ。生徒についても、一人ひとりが皆違っていて当たり前という意識を育てていく。</p> <p>②避難訓練は授業中の災害を想定し、移動教室も含めた避難を行った。今後も様々な状況を想定し、危機管理マニュアルの見直しを行っていく必要がある。訓練の時間の確保も課題である。</p> <p>③業務量の削減と教職員の在校時間の削減がリンクするように、教職員の意識を徹底させる。</p>	<p>・職員全員がインクルーシブ教育実践推進校としての役割や目的を理解し、生徒一人ひとりへの声掛け等に係る研修を年度の早い時期に行えるよう計画してほしい。</p> <p>・シェイクアウトやグラウンドへの避難訓練、DIG訓練等を行った点は素晴らしい。また、次年度に向けての危機管理マニュアルの見直しが行われているところも評価できる。</p> <p>・ICT活用や業務内容の精選等により業務量の削減を行っている部分は評価できる。来年度の校務グループ改編により、更なる業務量の削減につなげてほしい。</p>	<p>①校内外において共生社会の実現を図れるように、生徒・職員が授業や研修を通してインクルーシブ教育実現の目的を理解することができた。</p> <p>②災害発生時に正しく対応できるための訓練を行い、かつ防災マニュアルの見直しを行うことで、生徒が安心・安全に学べる学校づくりができた。</p> <p>③校務の精選・整理、適切な行事の実施等により業務改善を図った。来年度からのグループ改編を行い、更なる働き方改革を実施する。</p>	<p>①生徒、職員共に人権を意識した研修を受講することにより、インクルーシブについて理解を深め、校内外において共生社会に参画する意識づけを行う。</p> <p>②改定された危機管理マニュアルの周知徹底を職員全体に図り、校内施設の安全点検を、日常から意識して行えるようになる。</p> <p>③業務時間の短縮につながるツールを効果的に用いることで、働き方改革につながる更なる業務の見直しを行い、働き方改革を進めていく。</p>